



K中通信

学校だより 1号
令和3年4月9日
横浜市立軽井沢中学校

【学校教育目標】『主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします』

- 様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます（知・徳・公）
- 持続可能な社会の実現を目指し、しなやかに生きる力を育てます（体・開）

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/karuizawa/>

新年度を迎えて

校長 佐藤 由利

今年の春は例年よりあたたかく、様々な花の中での新年度スタートとなりました。私は、今年度より校長としてこの軽井沢中学校に着任いたしました、佐藤由利と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

先日4月7日、2,3年生全体が集まって始業式を終え、入学式も保護者の方にご列席いただく中で無事に執り行うことができました。始業式では、2,3年生一人ひとりがきちんとこちらの目を見ながら話を聞く姿勢がすばらしく、その後も手際よく入学式準備を進め、明るく挨拶をして下校していく後ろ姿がとても頼もしく感じられました。午後から入学してきた新入生も、緊張しながらも中学校生活への決意を感じさせるようなしっかりした態度で式に臨んでいました。

今年度軽井沢中学校は、生徒数269名、教職員数（非常勤講師等含む）32名でのスタートとなりました。今年も様々な工夫を行い、軽井沢中学校の伝統である「一人ひとりが安心して、自分の個性を十分に発揮できる」学校を継承していきましょう。

保護者の皆様や地域の方々には、日頃より生徒を温かく見守っていただきありがとうございます。

このような状況のため今年度も従来の教育活動の変更や、やむを得ない中止などがあるかもしれませんが、情報発信に努めますので、引き続き本校の教育活動に御理解と御支援をいただけますようお願い申し上げます。

新年度を迎えて

副校長 田中 光弘

春の光が景色に彩りを与える季節となりました。地域・PTA・保護者の皆様方には今年度もお世話になります。どうか、よろしくお願いいたします。

先日、水泳の池江璃花子選手が大病を克服して、五輪の切符を手にされたという報道がありました。家でその報道を見ていて素直に「すごい人だな」と思いました。

すごいと一言にいても、そこに何を見るかは人それぞれ違うと思います。五輪の切符を手にしたことにごさを感じる人もいれば、大病を克服したことにごさを感じる人もいると思います。様々ある中で、私が一番すごいと思ったのは「困難な状況に負けなかった姿」です。私のようなものが言葉にするのもおこがましいことではありますが、きっと並大抵なことではなかったと思います。筆舌に尽くしがたい苦しみがあったことと思います。それでもレースの舞台に復帰され、レースごとにタイムを上げ、五輪の切符を手にされた、その姿自体に感動しました。

ベートーベンは次のような言葉を残しています。

「努力したものが成功するとは限らない。しかし、成功したものは必ず努力している。」

私自身も努力を積み重ねていきたいと考えております。

保護者の皆様、地域の皆様、これからも生徒の成長のために、引き続きのご助力を、よろしくお願いいたします。